

### コンクリートわく持上装置

特公 昭 34-6372

発明者 守 住 一 郎

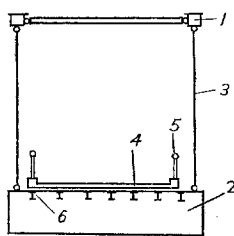
スライディング フォーム 工法における環板の移動を油圧ジャッキで行う際、各ジャッキの高低を調整するため、各ジャッキに通水管によって互いに連通した筐体を取りつけこれに水を入れ、筐体内の水位の高低によつて油圧ポンプからジャッキへの油の供給を断続調節するようにしたものである。

### 箱桁補剛式アーチ系およびローゼ系橋梁

特公 昭 34-7074

発明者 田 中 五 郎

橋床床組工を橋の長手方向に連続する薄肉の一体的に剛な箱桁として、アーチ橋の補剛部材またはローゼ橋の載荷弦を兼用させるようにしたもので、材料費および建設費の節約をはかった。図面はアーチ系橋梁に実施した場合のもので(2)は箱桁、(6)は箱桁の内部に設けた小さい断面の補強材である。



### ベントナイトろろ水止め施工におけるろろ水止め工法の改良

特公 昭 34-7363

発明者 中 島 保 治

ベントナイト注入によるろろ水止工法は従来周知であるが、この工法ではベントナイトの膨潤が遅いのが欠点である。この欠点を是正するため苛性ソーダがベントナイトの膨潤を促進する性質を有することを利用して、ベントナイト注入について苛性ソーダ溶液を注入するようにしたのが本発明である。

### 金属製タンク建設法

特公 昭 34-7364

発明者 平 田 寛

まず地盤上に底板のない金属製タンク本体を設け、その底部に不透水性で可撓性の仮底を水密状態に取付け、

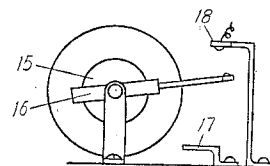
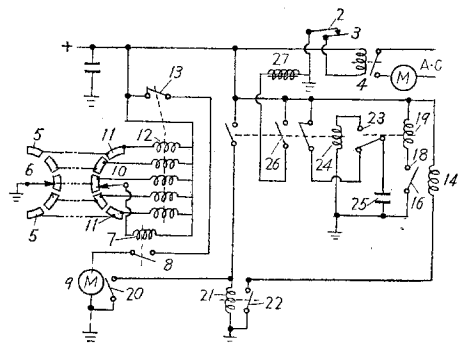
次にこの本体内に水を一杯入れて下方の地盤に仮荷重をかけ、十分沈下作用を行わせてから、仮底を取りのぞき盛土をする等して地盤を平らにならし、最後に金属製底板を固着してタンクの建設を完了させるもので、地盤の不等沈下に帰因するタンクの破損防止が目的である。

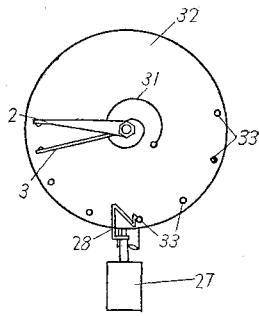
### 地耐力自動測定器における荷重増加装置

特公 昭 34-7366

発明者 加 藤 涉

一定時間(2時間)内の地盤沈下量が一定値(0.1mm)以下のときのみ沈下が停止したとみなして、載荷板に荷重を加えるオイル ジャッキ 駆動用電動機を作動して次の荷重増加を行うのであるが、その自動機構は次のようになっている。載荷板の沈下量を示すダイヤル ゲージの指針(6)は 0.1mm ごとに接点(5)を有し沈下が 0.1mm 以上になると接点(8)が閉じて電動機(9)が回転する。電動機(9)は針(10)を回転させるとともに沈下量記録軸をも回転させる。この記録軸が回転するとコイル(14)の電流が切れるようになっている。コイル(14)の中では鉄心(15)が 10 時間に 1 回転程度でまわつていて針(16)はこの鉄心に吸着されるとともにまわり、受台(17)から 2 時間の位置に設けられた接点(18)に接触する。この接触は 2 時間内の沈下量が 0.1mm 以下のときのみ起り、ソレノイド コイル(27)を作動する。ソレノイド コイル(27)が 1 回作動して上下に動く円盤(32)はゼンマイ(31)の力で止め針(33)の一段だけ回転する。すると円盤(32)に固定された荷重指定針(2)も一段だけ進み、ブルドン管圧力計の指示針はこれを追つて、これと接触するまでオイル ジャッキ 駆動用電動機(1)、を作動し荷重を増加するのである。



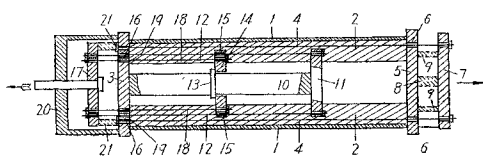


**プレストレスト コンクリート柱体に  
累加的に応力を導入する装置**

特公 昭 34—7370

発明者 板垣隆義

型わく(1)の一端に碇着板(3)を支承し、この碇着板に碇着したピアノ線(4)の他端を型わくの他端に設けたジャッキ受(5)の孔(6)を通して他の碇着板(7)に碇着するようにし、また碇着板(3)には支柱(10)を取付け、この支柱(10)に碇着板(11)および(14)を支承させ、碇着板(11)に碇着したピアノ線(12)は碇着板(14)の孔(15)および碇着板(3)の孔(16)を通して、また碇着板(14)に碇着したピアノ線(18)は碇着板(3)の孔(19)を通して、それぞれその他端を碇着板(17)に碇着するようにした。碇着板(17)、(3)間およびジャッキ受(5)碇着板(7)間にはそれぞれジャッキを装入しそれぞれのピアノ線に張力を与えたらジャッキを支承材(21)および(9)とおきかえる。このようにしたものを回転台の上に乗せ回転させながらコンクリートを打設する。このようにして碇着板(3)の方に向つて段階的に導入応力を累加することがで



きる。

**打込式ステー アンカーの埋設方法**

特公 昭 34—7371

発明者 玄間政次郎

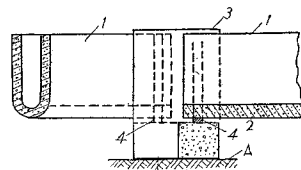
まず張索支杆を所要深度の地中に打込んでから、抵抗板を地表から加わる張力に対して最大の抵抗をもつ角度をなして地表から地中に打込み、地中において張索支杆と抵抗板とを係合させるようにしたものである。これに使用する張索支杆は先端に係合金具を有しこれが抵抗板の下側に係合するようにし、また抵抗板には先端に中央に向う山形の切り込みを設け、その切り込みに続いて張索支杆の杆部が嵌合する溝を設ける。抵抗板の溝に張索支杆の杆部が嵌合したら張索支杆を上方に引き係合金具と抵抗板とを係合させる。

**コンクリート開キョの継手部施工方法**

特公 昭 34—7978

発明者 宮崎義成

継手部に開キョ体の嵌る凹溝をもつた支持体(3)を立設し、この凹溝内に間隔をあけて二つの弾性パッキング(4)(4)を嵌装し、相隣るコンクリート開キョ体(1)(1)を端部に間けきがあくようにして凹溝内に入れ、それらを弾性パッキング上に載せる。弾性パッキングは開キョ体の自重により凹溝面に圧着され接続部の水密が保たれる。また開キョ体は弾性パッキング上に単に載置されているに過ぎないので接続部における運動は自由で該部が破壊することが防げる。



(特許庁審査二部 染谷 広司)

**日本工学会創立80周年記念  
講演と映画の会**

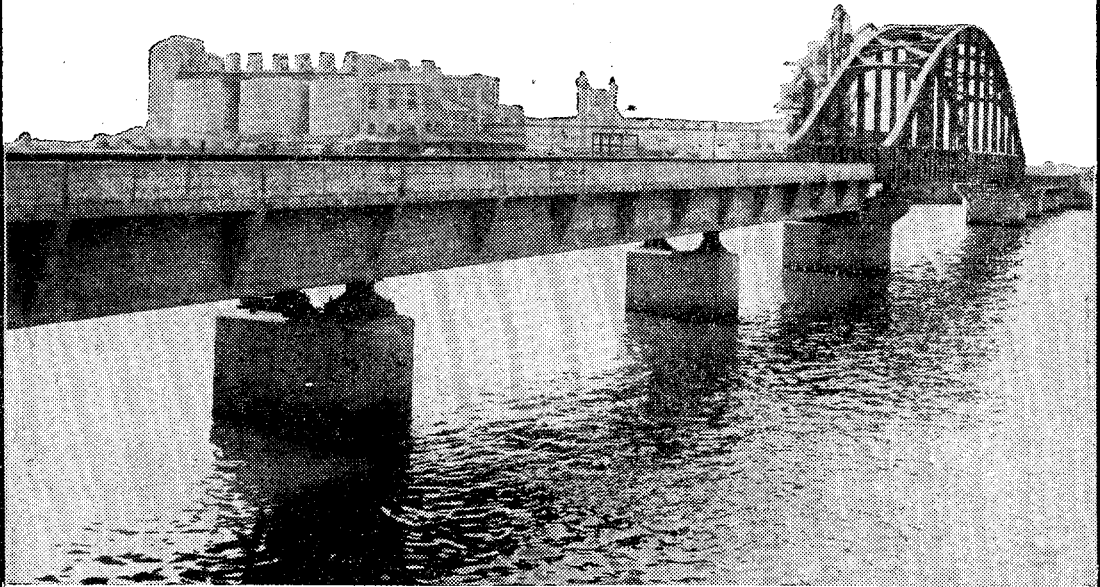
と き : 34年11月27日(金) 13.30~16.00  
 と ころ : 蔵前工業会館 講堂(5階) 国電新橋駅前  
 開会の挨拶 加茂会長 13.30~13.35  
 講 演 石油と石油化学 東京工大教授 崎川範行 13.35~14.20  
 鉄道の近代化 日本国有鉄道 島 秀雄 14.20~15.05  
 映 画 こだまの超速度試験 15.10~15.30  
 油脈を訪ねて 外 15.30~16.00

**記念祝賀会**

と き : 34年11月27日(金) 18.00~20.00まで  
 と ころ : 学士会館 (神田一つ橋)  
 会長の挨拶 18.00 来賓祝辞 開宴 閉会 20.00  
 案内先 (全部招待)  
 会員学協会長、並びに維持会員、工学会役員、幹事、主査等、関係官庁、団体、業界 約100名を招待



最も良い最も経済的なコンクリートを造る!



国鉄 晴海橋 東京工事局

# ポンリス

セメント分散剤

製造元

日本曹達株式会社

本社 東京都千代田区大手町二丁目四番地 電話 大代表 (211) 2 1 1 1  
支店 大阪市東区北浜二丁目九〇番地 電話 北浜 (23) 7063~6  
工場 新潟県中頸城郡中郷村二本木工場 電話 中郷 5 1・6 1

発売元

日曹商事株式会社

本社 東京都中央区日本橋本町三丁目五番地 電話日本橋 (24) 7191~5  
大阪営業所 大阪市東区北浜二丁目九〇番地 電話北浜 (23) 7063~6  
名古屋出張所 名古屋市中区御幸本町通三丁目六番地 電話本局 (23) 1 5 8 5  
札幌出張所 札幌市北九条東一丁目 電話札幌 (3) 0625・4750  
福岡出張所 福岡市天神町八番地(西日本ビル) 電話中 (4) 0961・6731